

志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☐ もとめる ・ ☐ はたす
------------	---

活動名	第一回進路講話 p4cによるキャリア探究活動
教科・領域等	特別活動
活動学年等	1学年（電子機械科・電気科）
ねらい	本校に入学する1年生は、中学校在学時は不登校や別室登校などが続き、他者との関わり合いが希薄となり自己表現に困難を感じる生徒が少なくない。そのような生徒に対し、探究の対話（p4c＝philosophy for children）の手法を活用し、知的セーフティが確保された中で「職業についての『対話』」を行うことで、他者とのコミュニケーションの取り方、自己表現の仕方を身につけるきっかけとする。また、「働くこと」をテーマとした対話を通して、キャリア発達段階に応じた職業観、生き方について自身の考えをまとめ、職業意識を高める一助とする。

【実践内容】

- 実施日時 令和6年6月14日（金）1校時（17時50分～18時30分）
 ○対象 1年生（電子機械科17名・電気科8名）
 ○会場 本校体育館
 ○内容 p4cによるキャリア探究活動「働くこととは」
 講師 宮城教育大学 上廣倫理教育アカデミー
 教育支援コーディネーター 日置 利通 氏
 又木 潤 氏
 副所長 堤 裕子 氏

・会場では、生徒24名が講師を含め円座となり、「コミュニケーション・ボール」を使つての自己紹介（アイスブレイキング）を行った。入学後約2ヶ月を経ているが、両学科ともに例年を大幅に超える入学者がおり、クラス内での関わり合い、他者理解は十分ではない。さらに、学科間の関わり合いは少なく合同での行事などもほとんどないため、他者理解が十分ではない実情がある。そのため、堅苦しくない柔らかな雰囲気の中、同学年の生徒として自己を表現し他者を知ることがをひとつの目的とした。

まず、コーディネーターの進行で、少人数で日常的で簡易な話題をテーマにした「対話の練習」を行い、「他者の考えを尊重する（否定しない）」などのルールを定めた。

本時のテーマである「働くこと」をテーマとし、「そもそも人は働かなければならないのか？」「『働くこと』の意味は？」など、生徒それぞれが「問い」を立て、その「問い」をワークシートに大きく記入した。そして、提示された様々な「問い」の中から、対話のテーマとする「問い」を全員で選び、さらにその「問い」に対する自分の考えを自由に述べる活動を行った。他者の前で話すことが苦手な生徒もいたが、堅苦しくない雰囲気から、多くの生徒は抵抗感や困難を感じることなく、率直に自分の考えを表現することができたようだ。

まとめとして、ワークシートの内容を全員で改めて見直し、他者評価をしながら互いの考えや思いを全体で共有（シェア）することができた。「振り返り」として自己評価（事後アンケート）を行ったところ、対話を通して自己表現を行い他者の考えにふれることができたため、自分の考えの広がりや深まりを感じる生徒もみられた。

本時の実践では、「何を言っても否定されない」という安心感（セーフティ）の確保を対話の前提とすることで、心地よい居場所づくり・柔らかな人間関係の構築を図ることにつながり、生徒が「互いの問いを大切にし、対話により探究する」という学びを経験することで「主体的・対話的で深い学び」の一端にもなったと思われる。

本校としては2回目の実践であったが、前回よりも深化した部分もあり、生徒とともに参加した教員にとっても学ぶところも多く、今後も継続して実践していきたい。

